

平成 30 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 福島福祉施設協会

I 事業報告

1. 福祉施設経営

福島市の総合福祉施設経営団体として、合理的かつ能率的な施設経営を行うとともに、地域住民や利用者の要望に対処するため、地域社会と密接な連携を保ちながら、施設機能の活用を図るとともに福祉向上に努めた。

2. 法人運営

- (1) 社会福祉法人としての重要な役割を果たすべく、経営組織をもって事業運営に関する透明性の向上ができるよう諸規程の整備を行った。
- (2) 職員の人材確保のため、広報活動を盛んにし適時に職員採用試験を実施。即戦力となる看護師 1 名、臨時雇用職員から 2 名、新卒者 4 名の優秀な人材を採用した。
- (3) 利用者の立場にたち、多様化するニーズに的確に対応出来るように満足度調査や第三者評価を受審し、自主的改善に努めた。
- (4) 職員が心身共に元気に働ける職場を目指し、保健だよりの発行や新たに健康診断後に医師からの意見聴取をする等、健康づくりに努めた。

3. 役職員の資質向上

- (1) 協会職員としてのキャリアパスの整備を保育所において実施。また、高齢者施設においてもキャリアパスを構築し、人間性の向上と経営環境の変化に適應できるよう意識高揚に努めた。
- (2) 役職員の意思疎通を図り、施設運営の高揚に努めた。
- (3) 職員の人材確保に努めるとともに、各種研修を通じ社会福祉理念、技術の修得向上に努めた。
① 新人職員研修（年 2 回） ② 副主任研修（年 2 回） ③ 所長・主任研修（年 1 回）
④ 職員全体研修（年 1 回）
- (4) 臨時雇用職員に無期雇用転換制度を周知し、該当者 87 名中 33 名の希望があり、希望者に対し受理通知を配付し、平成 31 年度の無期雇用転換に備えた。

4. 施設改善事業

- (1) 福島保育所改築の実施計画に基づき、平成 31 年 2 月に新園舎が完成し、3 月に開所することが出来た。
- (2) 施設の改修を行い環境改善に努めた。
- (3) 防災施設及び安全対策の整備をし、各施設の危機管理体制の強化に努めた。
- (4) 法人事務局と施設間における情報の共有化と連携体制を構築した。

5. 評議員会・理事会・監事会の開催

(1) 評議員会

定時 平成 30 年 6 月 25 日（月）

報告第 1 号 平成 29 年度事業報告

議案第 1 号 平成 29 年度決算承認の件

議案第 2 号 平成 30 年度各会計資金収支補正予算

臨時第 1 回 平成 31 年 1 月 10 日（木）

議案第 3 号 平成 30 年度各会計資金収支補正予算

臨時第 2 回 平成 31 年 3 月 27 日（水）

議案第 4 号 平成 30 年度各会計資金収支補正予算

- 議案第 5 号 定款の一部変更の件
- 議案第 6 号 役員等報酬規程の一部変更の件
- 議案第 7 号 保育所管理規程の一部変更の件
- 議案第 8 号 平成 31 年度事業計画策定の件
- 議案第 9 号 平成 31 年度各会計資金収支予算
- 議案第 10 号 理事選任の件

(2) 理事会

第 1 回 平成 30 年 6 月 6 日 (水)

- 議案第 1 号 平成 29 年度事業報告承認の件
- 議案第 2 号 平成 29 年度各会計決算承認の件
- 議案第 3 号 給与規程の一部変更の件
- 議案第 4 号 保育所職員に対する処遇改善に係る手当等の支給に関する規程制定の件
- 議案第 5 号 平成 30 年度各会計資金収支補正予算
- 議案第 6 号 定時評議員会招集事項決定の件
- 議案第 7 号 福島保育所改築工事に係る厨房機器購入契約締結の件

第 2 回 平成 30 年 6 月 25 日 (月)

- 議案第 8 号 福島恵風園エアコン改修工事請負契約締結方法決定の件

第 3 回 平成 30 年 8 月 3 日 (金) 書面決議

- 議案第 9 号 福島恵風園エアコン改修工事請負契約締結の件

第 4 回 平成 30 年 12 月 27 日 (木)

- 議案第 10 号 平成 30 年度各会計資金収支補正予算
- 議案第 11 号 平成 30 年度第 1 回臨時評議員会招集事項決定の件
- 報告第 2 号 職務の執行状況について

第 5 回 平成 31 年 3 月 14 日 (木)

- 議案第 12 号 平成 30 年度各会計資金収支補正予算
- 議案第 13 号 定款の一部変更の件
- 議案第 14 号 役員等報酬規程の一部変更の件
- 議案第 15 号 就業規則の一部変更の件
- 議案第 16 号 職員服務規程の一部変更の件
- 議案第 17 号 処務規程の一部変更の件
- 議案第 18 号 職員給与規程の一部変更の件
- 議案第 19 号 職員旅費規程の一部変更の件
- 議案第 20 号 無期雇用転換職員の雇用等に関する規程の一部変更の件
- 議案第 21 号 保育所管理規程の一部変更の件
- 議案第 22 号 児童センター管理運営規程制定の件
- 議案第 23 号 社会福祉法人福島福祉施設協会が福島市公共施設を指定管理者として管理する際の施設運営規程制定の件
- 議案第 24 号 平成 31 年度事業計画策定の件
- 議案第 25 号 平成 31 年度各会計資金収支予算
- 議案第 26 号 平成 30 年度 第 2 回臨時評議員会招集事項決定の件
- 議案第 27 号 施設長等選任の件

第 6 回 平成 31 年 3 月 27 日 (水)

議案第 28 号 福島恵風園給食業務委託契約締結の件

第 7 回 平成 31 年 3 月 30 日 (土) 書面決議

議案第 28 号 福祉サービス苦情解決第三者委員選任の件

(3) 監事会

平成 30 年度 業務執行、財務状況監査

平成 30 年 5 月 29 (火) 30 日 (水)

6. 役員等研修会への参加

平成 30 年度 福島県社会福祉法人経営協・全国経営者協議会共催セミナー (前期)

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会・経営者協議会

期 日 平成 30 年 7 月 4 日 (水)

場 所 ビッグパレットふくしま

出席者 木村 六朗

平成 30 年度 社会福祉法人評議員研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

期 日 平成 30 年 8 月 1 日 (水)

場 所 ビッグパレットふくしま

出席者 紺野 啓三・福地 恵子

平成 30 年度 苦情解決責任者・第三者委員研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

福島県運営適正化委員会

期 日 平成 30 年 9 月 28 日 (金)

場 所 ビッグパレットふくしま

出席者 三瓶 ハル (苦情解決第三者委員)

平成 30 年度 社会福祉法人理事研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

期 日 平成 30 年 10 月 29 日 (月)

場 所 郡山ユラックス熱海

出席者 鈴木 一明

平成 30 年度 社会福祉法人監事研修

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会

期 日 平成 30 年 11 月 2 日 (金)

場 所 ビッグパレットふくしま

出席者 阪内 戦三郎

平成 30 年度 福島県社会福祉法人経営協・全国経営者協議会共催セミナー (後期)

主 催 社会福祉法人福島県社会福祉協議会・経営者協議会

期 日 平成 30 年 12 月 14 日 (金)

場 所 福島県農業総合センター

出席者 木村 六朗

7. 職員研修の実施

平成 30 年度 新規採用職員研修会 (年 2 回)

期 日 平成 30 年 4 月 11 日 (水)、9 月 12 日 (水)

場 所 協会会議室

内 容 社会人・組織人としての基本的な考え方

出席者	平成30年4月1日付採用職員 5名
平成30年度	副主任研修会（年2回）
期 日	平成30年4月19日（木）、8月30日（木）
場 所	協会会議室
内 容	リーダースキルの体得
出席者	副主任5名
平成30年度	職員合同研修会
期 日	平成30年10月27日（土）
場 所	福島市市民会館
内 容	接遇・マナー研修
参加人数	102名
平成30年度	施設長・主任研修
期 日	平成30年11月13日（火）
場 所	協会会議室
内 容	防災対応について
参加人数	30名

8. 苦情受付

(1) 平成30年度苦情受付件数

施設分類	件数	内容
高齢者施設	6件	環境1、財産管理1、説明・情報提供2、その他2
保育所	7件	保育サービス5、個人情報1、その他1
児童センター	3件	保育サービス1、職員の対応1、その他1

(2) 苦情内容

高齢者施設	苦情申出人	入所者
	苦情内容	朝一番に洗濯機を使用するとききれいになるはずの洗濯物が汚れてしまうので、きれいに洗濯できるようにしてほしい。
	処理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・購入してから一度も洗濯層の洗浄をしたことがなかったので、洗濯層を洗浄致しました。 ・井戸水を使用していることから建物内の配管の錆汚れが原因とも考えられるため、朝一番に使用する際には水がきれいな状態になるまで出し続けた後に使用して頂くよう入所者全員に周知致しました。
	苦情申出人	利用者
	苦情内容	センターの駐車場が狭いうえ利用者の駐車の方法が悪いので、職員が駐車場整理をするなど対策を考えて欲しい。
	処理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・要望を受け止めたうえで、今までも限られた駐車スペースであるため、お互いに配慮しながら利用して頂くよう周知してきた経過をお伝えしました。また、状況に応じ縦列駐車する場合には、ご本人に了承を得たうえで鍵を預り、職員が車の移動を行う対策をとっている現状もお伝え致しました。今後も引き続きこのような対策をとって参ります。 ・駐車スペースに白線を引き、分かりやすくする対策をとりました。

保育所	苦情申出人	保護者
	苦情内容	子どもが怪我をした際、電話応対した職員の説明が子どもが一方的に悪かったような話し方に聞こえ、責任転嫁しているように捉えられたので対応を改めて欲しい。
	処理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我をさせてしまったこと、不快な思いをさせてしまったことに謝罪し、職員全体でこの件について話し合いをもちました。 ・現場を見ていなかった保育士が連絡したことに加え、状況、怪我の状態説明が不十分であったことを深く反省し、職員間で共通認識をもち、今後も保護者との信頼関係のもと保育にあたっていく旨お伝え致しました。

児童センター	苦情申出人	保護者
	苦情内容	先生が厳しく、子どもが児童センターに行きたくないと話している。大変お世話になっているが、気をつけて欲しい旨、福島市こども政策課に連絡が入る。
	処理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・匿名希望であったため個別対応は出来ないが、苦情内容を受けとめ職員全員で話し合いをもちました。 ・喧嘩して手が出てしまう等、危険を伴う状況と判断したときに厳しく言葉掛けをすることがあるため、厳しいと感じられたのではないかと考えられたが、不快な思いをさせてしまったことに反省し、今後は言葉掛けに気を配り丁寧な対応をし、より一層信頼関係を築いていけるよう心がけて参ります。

9. 地域における公益的な取組

(1) 情報の発信

① 健康に関する情報の発信、介護相談窓口

発信方法：地域の多くの住民が集まる養護老人ホーム福島恵風園の夏祭りにて情報のパンフレットを配布

内容：熱中症予防についてのパンフレットを作成し、地域の参加者に配布
 情報発信と同時に、介護に関する悩み・困りごとの相談窓口を開設し連絡先と担当者名をパンフレットの中に記載

取組施設：福島恵風園デイサービスセンター
 めぐみの風居宅介護支援センター
 ホームヘルパーステーションめぐみ

② 「おかあさん だいじょうぶ！」

発信方法：当協会ホームページの専用ページに掲載

内容：子育てに悩んでいる保護者を対象に専門職である保育士・栄養士から子育てや食育に関する情報を毎月1回発信
 子育て情報

テーマ「泣く」

食育情報

毎月の季節に合った食の情報、保育所のレシピ紹介

取組施設：福島隣保館保育所

(2) 体験事業

「保育所にあそびにきませんか」

対 象 者 : 地域の乳幼児とその保護者

開 催 回 数 : 1年に5~6回

内 容 : 保育所での生活を体験
水あそび、運動あそび、
制作等同年齢・異年齢の子どもとの交流
給食の無料提供
育児相談

取 組 施 設 : 福島隣保館保育所、瀬上保育所、福島わかば保育園
福島ふたば保育園、飯坂保育所

取組の成果 : 育児について疑問に思っていたことや不安なことなどを、専門職である保育士や栄養士に相談することで、年齢ごとの発達を理解することや成長の見通しができたり、食事については実際に手に触れ、口にすることができたりと保護者に好評である。

Ⅱ 実績報告書

養護老人ホーム 福島恵風園

1. 運営管理

- (1) 入所者の終のすみ家と考え、快適な生活が送れるよう健康、食事、生活に潤いを与える行事活動の充実を図った。
- (2) 介護の必要な入所者は介護保険サービスを利用し、機能の維持を図った。
- (3) 被虐待高齢者、一人暮らしによる生活苦の高齢者、身元引受人のいない高齢者の積極的受け入れを行った。
- (4) 100名の定員を充足するため、地域で生活支援を必要としている高齢者を入所につなげるよう福島市、包括支援センターに働きかけた。
- (5) 養護老人ホーム入所の実態と入所基準に大差があるため、行政へ現状の報告と実状に合った職員配置の要求をした。
- (6) 措置費単価において、消費税増額に伴った単価になっていなかったが、平成29年度より生活費部分が増額され、平成30年度より事務費の人件費を除く部分が増額となった。
- (7) 「福島市あらかわクリーンセンター」からの給湯を活用した。

2. 職員体制

- (1) 職員間の共通課題意識向上のため、各種研修会へ参加した。
「自動車運転企業向け研修」(生活相談員・主事)
- (2) 夜間業務、園内清掃業務について「福島市シルバー人材センター」に継続委託した。
- (3) 給食業務を「日清医療食品株式会社」に継続委託した。

3. 施設整備

以下の施設整備を実施した。

- (1) エアコン改修工事
- (2) 大浴場機械室内風呂ろ過ポンプ交換工事
- (3) ラックコンベア食器洗浄機交換
- (4) リチウム蓄電システム導入
- (5) 除雪機購入
- (6) 小浴場混合水栓取替修繕工事
- (7) C系統床暖房用温度調節器交換工事
- (8) 屋上外壁の劣化状況調査
- (9) 非常用予備発電機修繕
- (10) 和式トイレを洋式トイレに改修
- (11) トイレの尿石落とし清掃

4. 健康管理

- (1) 定期健康診断、結核検診、検便、インフルエンザ予防接種などを実施した。
- (2) インフルエンザ・ノロウイルス予防のための啓蒙、各所の消毒設備と消毒、加湿など予防に努めた。
・インフルエンザが発症した場合の予防薬投与について承諾を得た。

・インフルエンザ流行の警戒レベルに達した時点で、面会外出制限を行った。

(3) 食中毒防止のための啓蒙に努めた。

5. ニーズへの対応

(1) アンケートをもとに5種類の旅行を企画し、33名が参加した。

(2) 食事費用は参加者負担の「外食の会」を新たに企画し、参加者37名が食事を楽しんだ。

(3) 花見、園外集会などの充実を図った。

(4) 月2回の食料品の訪問販売と年2回の衣料品の訪問販売を実施した。

(5) 洗濯の出来ない入所者に対し、クリーニング業者を利用した。

(6) テレビ・携帯電話などの電化製品の居室での利用を継続した。

(7) 自分らしく最後を迎えるため、入所時に「延命措置」についての確認をとった。

6. 地域交流活動

(1) 「七夕盆踊り大会」「運動会」を地域の協力を得て実施した。

(2) ボランティア、慰問などの積極的な受け入れを行った。

(3) 学生の「体験学習」の場の提供、保育園・幼稚園や小学校との交流を継続実施した。

7. 利用状況

定員		100人		
入所	人数(3月31日現在)	102人		
		通常入所		
		男	女	計
		23	79	102
		被災者受入		
		男	女	計
		0	1	1
退所	人数(平成30年度)	15人		
	理由	男	女	計
	長期入院	0	2	2
	死亡	2	8	10
	老人保健施設への転所	0	2	2
	他施設への転所	0	1	1
	自宅へもどる	0	0	0
	その他	0	0	0

地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業 福島恵風園デイサービスセンター

1. 運営管理

(1) 利用者の生活の質の向上のため、担当者会議等に出席し家族や、各居宅介護支援事業所等と連携を図った。

(2) 外部利用者の送迎を安全に安心出来る体制で実施した。

(3) 入浴介助については、介護職員の確保をし、充実した介助を実施した。

(4) 各種行事については、季節に応じたレクリエーション等を実施した。

(5) 食事については、栄養士と連携し個々人のニーズに沿った提供を実施した。

- (6) 介護相談員派遣事業の訪問を受け入れ、意見交換を通し、質の向上に努めた。
 - (7) レクリエーション・機能訓練等、楽しみながら心身活性化の実施をした。
 - (8) 年2回運営推進会議を開催し、地域との交流・連携を図った。
 - (9) 保育所との交流を実施した。
 - (10) アンケートを実施し、事業内容の改善を行った。
 - (11) 事業所内外の研修に参加し、専門職としての質の向上を図った。
2. 衛生管理
- (1) 空気清浄器を整備し施設内の消毒徹底を図り、感染予防に努めた。
 - (2) 浴槽のレジオネラ菌の検査を年1回実施した。
 - (3) インフルエンザ流行期には、マスクの配布・消毒を実施し発生予防に努めた。
 - (4) 職員が感染の媒体にならないよう消毒を徹底した。
3. 施設整備
- エアコンの取換工事を実施した。
4. 地域交流活動
- 福島恵風園の夏祭り開催時に事業所紹介を行い、同一建物内介護保険事業所と共に熱中症予防の啓発と介護相談等のチラシとクリアファイルを配布した。
5. 利用状況

年間延べ利用者数		2,899 人	
1日平均利用者数		11.9 人	
稼働日数		244 日	
登 録 者	人数(3月31日現在)		36 人
	介 護 度 内 訳	事業対象者	1 人
		支援1・2	5 人
		介護1	5 人
		介護2	12 人
		介護3	9 人
		介護4	2 人
		介護5	2 人

指定居宅介護支援事業

めぐみの風居宅介護支援センター

1. 活動状況及び事業内容
- (1) 利用者のニーズへの的確な対応及び生活の質の向上を目指し、各事業所との連携、他機関との連携を図りながら、総合的かつ効率的な視点に基づくサービス提供を実施した。
 - (2) 福島恵風園、福島恵風園デイサービスセンター、ホームヘルパーステーションめぐみと定期的に園内連携会議を開催し、園内利用者のニーズに即応した円滑な介護サービスの提供が行えるよう連携を図った。
 - (3) 指定介護予防支援業務の委託を地域包括支援センターより受け、介護予防、総合事業のケアマネジメントを行った。
 - (4) 要介護認定調査の委託を受け、毎月要介護認定調査を行った。
 - (5) 事業所内外研修や更新研修に参加し自己研鑽を重ね、専門職としての質の向上に

努めると共に、より良いケアプランの作成や相談援助に役立てた。

(6) 地域包括ケアシステム構築に向けた地域ケア研修会や地域の諸団体との関係構築を図った。

(7) 利用者、家族の緊急時に対応するために、常時（24 時間）担当者と連絡をとれる体制を整え、営業時間以外にも対応を行った。

2. 利用状況

居宅サービス計画作成実件数(月平均)	76 件
予防委託実件数(月平均)	7 件
給付管理年間総数	922 件
認定調査年間実施総数	95 件
在宅訪問年間総数	1,218 件

指定訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業

ホームヘルパーステーションめぐみ

1. 運営管理

(1) 主に福島恵風園在園者を中心に据えながら、在宅利用者に対してもホームヘルプサービスを提供した。個人の有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・食事等の介助、及びその生活全般にわたる援助を提供した。

(2) めぐみの風居宅介護支援センター、地域包括支援センター及び福島恵風園との連携を密にとりながら、利用者のニーズに十分配慮し、経営基盤の安定に努めた。

(3) サービス担当者会議及びリハビリテーション会議への出席等により、保健医療サービス、福祉サービス提供事業者との密な連携を図った。

(4) 利用者のニーズに対応するため、勤務時間帯を必要に応じて変更し、充実したサービス提供に努めた。

2. 事業内容

(1) 訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業を提供した。

(2) 定期的な事業所内研修の実施及び積極的な施設外研修会に参加し、職員の資質の向上と専門性の研鑽に努めた。

(3) 福島恵風園夏祭り開催時、同一建物内介護保険事業所と共に、熱中症予防の啓発と介護相談等のチラシとクリアファイルを配布した

3. 安全衛生管理

(1) インフルエンザ感染予防処置のため、マスク等ウイルス対策用品を備え使用した。

(2) 万が一感染者が発生した場合に、媒体とならないよう消毒を徹底し、感染拡大防止に努めた。

(3) 腰痛予防や転倒予防についての意識を高め、スライドボードの導入や恵風園内の「危険マップ」を作成し、危険箇所の注意喚起を行い、安全に業務を遂行するよう努めた。

4. 利用状況

年間延べ利用者数	11,549 人	登録者 3月31日現在 45人	介護度内訳	支援1・2	0 人
1日平均利用者数	31.7 人			介護1	7 人
				介護2	12 人
稼働日数	365 日			介護3	18 人
				介護4	6 人
				介護5	2 人

老人福祉センター（福島市指定管理施設） 福島市わたりふれあいセンター

1. 運営管理

高齢者が健康で明るく楽しい日々を過ごすために、健康増進器具や囲碁・将棋及び図書、そして入浴並びに休憩等の施設を活用して憩いの場を提供した。

2. 運営方針

- (1) 利用者の安全確保に努めるとともに、生活相談等の事業を実施することにより事業の目的達成に努めた。
- (2) 地域の各種機関・団体との連携を図り、施設を地域コミュニティー活動の場として開放し、サービスの提供に努めた。
- (3) 利用者が活動しやすい雰囲気づくりに努めた。

3. 事業内容

(1) 基本事業

高齢者の生活相談、健康相談、健康指導を行った。

(2) ふれあい交流事業

世代間交流事業に参加した。

4. 利用状況

利用者数	個人	9:00～18:00	21,850 人
		上記のうち入浴者	18,686 人
	団体	9:00～18:00	5 件
		上記の人数	205 人

生きがい型デイサービス・外出支援事業（福島市受託事業） 福島市渡利デイサービスセンター

1. 運営管理

在宅で生活する介護保険対象外の比較的元気な高齢者及び家に閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者に対し、通所により各種のサービスを提供することによって、生きがいと社会参加を促進するとともに、社会的孤立感の解消及び自立生活の助成に努めた。

2. 運営方針

- (1) 市の委託事業として、利用者の確保と各種行事の実施により、円滑かつ安定した事業の促進を図り、事業目的の達成に努めた。

- (2) 高齢者と子どもたちとの交流や、高齢者の生きがいと社会参加の促進に努めた。
- (3) 事業目的の達成のため、安全で安心して利用できるセンターとして、専門性を広く公開し、地域福祉の向上に努めた。

3. 事業内容

- (1) 基本事業を実施した。

健康相談、送迎、入浴サービス、給食サービス（福島市契約書による）、レクリエーション、ふれあい交流事業を行った。

- (2) 生きがい活動として、趣味活動、日常動作訓練、遠足等を実施した。

4. 利用状況

年間延べ利用者数	2,743 人
1日平均利用者数	11.4 人
稼働日数	241 日
登録者数(3月31日現在)	69 人

保 育 所

福島隣保館保育所、福島保育所、瀬上保育所 福島わかば保育園、福島ふたば保育園、飯坂保育所

保育所

1. 運営管理

- (1) 多様な保育ニーズに応え、保護者が安心して預けられるよう質の高い保育に努め、子どもの生命保持と健やかな生活の基本となる健康安全の確保に当たった。
- (2) 実習・体験・訪問等を受け入れ保育所の機能を知らせ、一時預かり、保育体験、避難者や地域のお年寄りとの交流を深める地域の保育ステーションとしての役割を果たすよう努めた。
- (3) 保育の質の向上を図るため、テーマを決め保育士（年 3 回）、栄養士（年 2 回）の研修に取り組み、また子育て支援の充実を図り、合同研修など全職員で専門性の向上を目指した。

2. 保育状況

- (1) 保育理念のもと、保育課程に基づき発達段階に応じた保育に努めた。
- (2) 保護者との共通理解のもと、家庭保育と集団保育との相互関係を大事にしながら保育を進めた。
- (3) 食育活動として、季節の食材に触れることや、クッキング活動等を通して、望ましい食生活について知らせ、健全な心と体を育てた。
- (4) 子どもの心身の発達を阻害する事象を見逃さないように努めた。

3. 食育状況

- (1) 食育年間計画、食育目標、食育方針を作成し、季節、年齢、発達段階に応じた食事の提供を行った。
- (2) 食の嗜好を常に把握しながら食事を提供し、保護者との連携を密に乳幼児の食生活の指導を行った。
- (3) 食育の促進について、保育士と栄養士との話し合いを深め全職員で取り組んだ。
- (4) 医師の診断をもとに、アレルギー除去食を実施した。
- (5) 食中毒防止に常に留意するとともに、保護者に安全を周知するように努めた。

4. 健康管理

- (1) 嘱託医による乳児健診（毎月）、内科健診（年 2 回）、歯科検診（年 1 回）を実施した。
- (2) 身体測定（毎月）を実施して、成長発達状況の把握に努めた。
- (3) 専門機関による尿検査（年 2 回）を実施した。
- (4) 衛生管理マニュアルに沿って、感染症の予防に努めた。
- (5) 異常気象により熱中症の予防に努めた。

5. 安全管理

- (1) 建物、器具、遊具等の点検を行い、安全管理に努めた。
- (2) 消防署の指導のもとに、避難訓練・消火訓練（毎月）・総合訓練（年 1 回）を実施した。
- (3) 児童にわかりやすい防災、防犯の指導に努めた。
- (4) 交通安全指導の上で絵本や紙芝居を用いた実地指導を実施した。
- (5) 保育所に関する全ての個人情報の取り扱いにおいては、関係者の同意を得ながら

慎重に行った。

6. 施設職員の資質向上

(1) 施設外研修に参加した。

① 管内外の研修に参加した。

② 各部会研修・研究会（施設長、主任保育士、保育士、給食担当者）へ参加した。

(2) 施設協会内研修を実施した。

① 年間テーマに基づいた年齢別研修及び報告会

② 講演会

(3) 施設内研修を実施した。

① 保育課程に基づき保育計画・行事等の検討及び反省

② 園外研修参加者による報告

③ 施設ごとにテーマを設定した自主研修

7. 利用状況

施設名		福島隣保館 保育所	福島 保育所	瀬上 保育所	福島わかば 保育園	福島ふたば 保育園	飯坂 保育所	合計
定員		120	120	80	60	90	90	560
3月31日現在	年齢別在籍人数							
	0歳	15	14	11	11	13	7	71
	1～2歳	41	39	33	22	34	35	204
	3歳	23	26	20	12	20	19	120
	4歳以上	50	45	36	26	34	42	233
	計	129	124	100	71	101	103	628
	充足率	107.5%	103.4%	125.0%	118.4%	112.3%	114.5%	112.2%
年間延べ	定員	1,440	1,440	960	720	1,080	1,080	6,720
	措置人数	1,487	1,451	1,174	825	1,191	1,218	7,346
	充足率	103.3%	100.8%	122.3%	114.6%	110.3%	112.8%	109.4%
	年齢別在籍人数							
	0歳	121	141	96	113	128	73	672
	1～2歳	490	454	406	259	415	413	2,437
	3歳	276	316	240	141	240	228	1,441
4歳以上	600	540	432	312	408	504	2,796	
	計	1,487	1,451	1,174	825	1,191	1,218	7,346

地域子育て支援拠点事業（福島市受託事業）

わかば子育てセンター、せのうえ子育て支援センター（5日型）

いいざか子育て支援センター（6日型）

1. 運営管理

核家族化、少子化とともに、家庭機能の変化、地域社会のつながりの希薄化が深刻になってきている現在、子育て中の親たちやこれから子どもを産もうとしている親たちが抱く不安や悩み、孤独感を共有し、寄り添う支援を意識し行ってきた。

子育て支援センターが、地域における子育て支援の中心的役割が果たせるよう各種事業を推進するとともに、事業が円滑に進むよう各関係機関・施設との連携を図りながら行ってきた。また、法人内の児童センターとの交流も進めてきた。

2. 事業内容

(1) 子育て親子の交流の場の提供及び交流促進

・新年度初めと夏・冬・春休み期間の広場開催を積極的に行い、利用の機会を増や

した。土曜日も開催している「いいざか」は、開設2年目となり平日利用出来ない父親や家族での利用も多く、口コミや事前申込不要の効果もあり利用者が急増した。

- ・事業終了後の振り返りの定例化で利用者状況の共有化や支援方法を深めた。
- ・感染症の発生状況をタイムリーに知らせ、症状や予防方法を伝え、感染予防に努めた。

(2) 子育てに関する相談・援助の実施

- ・転入者の利用が目立ち、医療機関や遊び場が知りたい、幼稚園・保育園入園状況を知りたいなどの相談に応じ、利用者と積極的にコミュニケーションを図った。
- ・子どもの生活や育ちに関する内容が主であったが、親子の関わり、親の言葉かけが起因する事例も多いため、その大切さや方法を伝えてきた。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・パンフレットの配置や子育て通信の掲示できる場所を増やし、地域に活動状況を知らせていくことで、利用を促進した。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・親も伝えることが難しくなった季節の行事に取り組んだ。
- ・親自身もリフレッシュできる内容の講座を実施した。
- ・講座の中で意識して他の親子の関わり方を見てもらい、保育所体験・幼児の食育講座において保育所の子どもたちと一緒に食事をする中で、年齢に応じた育ちや言葉掛けを知らせる機会を作った。

(5) 関係機関との連携・事業協力

- ・各方部のセンター間の交流を行い、利用している親子の情報の共有や支援技術や事業内容の向上を図った。
- ・市保健師、ママカフェ、センター連絡会等と交流し、利用者の現状理解と支援の助言を得る機会を持った。また、地域サークルへの活動支援を行った。

3. 利用状況

(1) 年間利用状況

事業別利用者数	施設名	わかば子育てセンター			
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場 コーナー開放	172	1,147	962	2,109
	親子教室	13	174	156	330
	赤ちゃん広場「ビヨビヨ広場」	44	316	317	633
	わかば「子育て広場」	15	185	146	331
	合計	244	1,822	1,581	3,403
	施設名	せのうえ子育て支援センター			
	事業項目	開催回数 (回)	利用数		
			子ども(人)	大人(人)	合計(人)
	子育て広場「いちようひろば」	148	702	534	1,236
	親子教室「のびのびくらぶ」	39	319	277	596
	赤ちゃん広場「あかちゃんこんにちは」	29	159	159	318
	所庭開放・コーナー開放	34	2	1	3
合計	250	1,182	971	2,153	
施設名	いいざか子育て支援センター				
事業項目	開催回数 (回)	利用数			
		子ども(人)	大人(人)	合計(人)	
子育て広場「こぶし」	211	1,715	1,514	3,229	
保育所体験事業	8	21	20	41	
親子教室	14	168	165	333	
センター開放	291	129	111	240	
合計	524	2,033	1,810	3,843	

(2) 子育て等に関する相談件数

施設名	相談方法内訳			合計
	電話	来所	訪問	
わかば子育てセンター	17	121	0	138
せのうえ子育て支援センター	0	52	0	52
いいざか子育て支援センター	9	53	0	62
合計	26	226	0	252

児童厚生施設

設置運営施設

福島市東浜児童センター 福島市野田児童センター

福島市指定管理施設

福島市蓬萊児童センター 福島市清水児童センター

福島市渡利児童センター

1. 運営管理

地域の児童健全育成の活動拠点として、児童に健全な遊びを通して、自主性、社会性を身に付け情操を豊かにし、運動に親しむ習慣の形成等により体力及び健康の増進を図るとともに、子育てサークル、子ども会等や青少年に関わる各種団体と連携し、地域組織活動の育成助長を推進した。

2. 活動状況

(1) 子どもたちが安全、安心に遊べる環境づくりに努めた。

- ① 保護者や学校等各関係機関との連携による防犯への対応
- ② 遊具等の定期安全点検整備と充実
- ③ 屋内外の各所修繕等による安全で利用しやすい施設の維持管理
- ④ 防火の推進、避難訓練の実施

(2) 子どもたちが気楽に立ち寄れる地域の安全な居場所として、センター主催事業の充実に努めた。

- ① 親子の触れ合いを配慮した事業の展開
- ② 地域のニーズを把握した各種行事や教室、クラブ活動の開催

(3) 放課後児童クラブの活動では児童の健康管理や基礎体力の増進に努めると共に、保護者会との連携及び会主催事業への協力に努めた。

(4) 児童センターの役割への理解と利用者の増加を目指して、独自の広報紙の発行、ホームページの更新など広報活動の充実に努めた。

(5) 福島市等の行政と連携を図り、子育て支援のために活動の場や各種情報の提供、育児サークルへの参加要請などを行い、安心して子育てが出来るための支援・協力を努めた。

(6) 子育て支援を行っている関係団体とネットワークを持ち構築し、地域組織の自主的な児童健全育成活動の支援を行った。

- ① 子育てを考える会との会議等での交流
- ② 地域の安全点検活動等

(7) 異年齢児交流事業や世代間交流の推進に努めた。

- (8) 中学生や高校生がボランティア等で参加出来る活動を行い、センター利用へつながるように努めた。
- (9) 子どもたちと地域住民が育ち合う関係を作るための拠点となるよう、各種事業を通して地域との連携に務めた。
- (10) けんだまフェスティバル等の 5 児童センター交流会の開催を通して親睦を図ると共に、健全育成に関する各種情報の共有化に努めた。
- (11) テーマを決めた研修を充実させると共に、各センターの事業に相互の参加することで職員の資質向上を図った。

3. 利用状況

施設名		東浜 児童センター	野田 児童センター	蓬莱 児童センター	清水 児童センター	渡利 児童センター	合計
利用者数	幼児	1,023	1,361	384	557	1,448	4,773
	1～3年	4,281	12,478	5,480	11,699	8,444	42,382
	4～6年	747	1,829	805	562	1,030	4,973
	中高生	199	223	201	19	1,339	1,981
	大人	937	1,900	1,560	907	1,865	7,169
	計	7,187	17,791	8,430	13,744	14,126	61,278
	上記のうち登録児童	2,986	10,683	4,719	10,938	7,345	36,671
	1日平均利用者	24.6	61.2	28.5	46.5	48.4	209.2
開館日数(日)		293	291	296	296	292	